

表面処理技術のさらなるグローバル展開をめざして

第57期・2017年3月期

第2四半期決算説明会資料

株式会社 JCU

東証1部 4975

2016年11月10日(木)





- 2017年3月期第2四半期決算概要
- トピックス
- 参考資料（会社概要）

当社決算の概況

〈2Q累計会計期間〉

JCU(単体) → 4月-9月

海外子会社 → 1月-6月

《電子部品分野向け》

ハイエンドスマートフォンは、販売低迷に伴う生産調整の影響から軟調に推移。一方で、中国系スマートフォンの需要は底堅く堅調に推移したため、当社顧客である基板メーカーの稼動が寄与し、薬品販売はハイエンド品の減少分をカバー。しかしながら、円高の影響を強く受け売上高は前年同期を下回った。

《自動車分野向け》

国内の薬品販売は、地震による生産停止や燃費偽装問題の影響から低迷した自動車生産に回復の兆しはあるものの軟調。海外は、中国において昨年から続く小型車減税による底堅い需要と拡販による新規ライン獲得が貢献し、薬品販売は高水準で推移。しかしながら、円高の影響を強く受け売上高は前年同期を下回った。

2017年3月期2Q累計 業績概況

【連結】

(単位:百万円)

決算期	2015年3月期 上半期	2016年3月期 上半期	2017年3月期 上半期		
	実績	実績	予想	実績	対前年同期 増減率
売上高	9,384	9,928	10,000	10,514	5.9 %
営業利益	2,145	2,350	2,100	2,574	9.5 %
経常利益	2,173	2,387	2,100	2,283	▲4.3 %
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1,441	1,605	1,430	1,682	4.8 %
1株当たり 四半期純利益	204円31銭	227円64銭	202円71銭	239円53銭	—

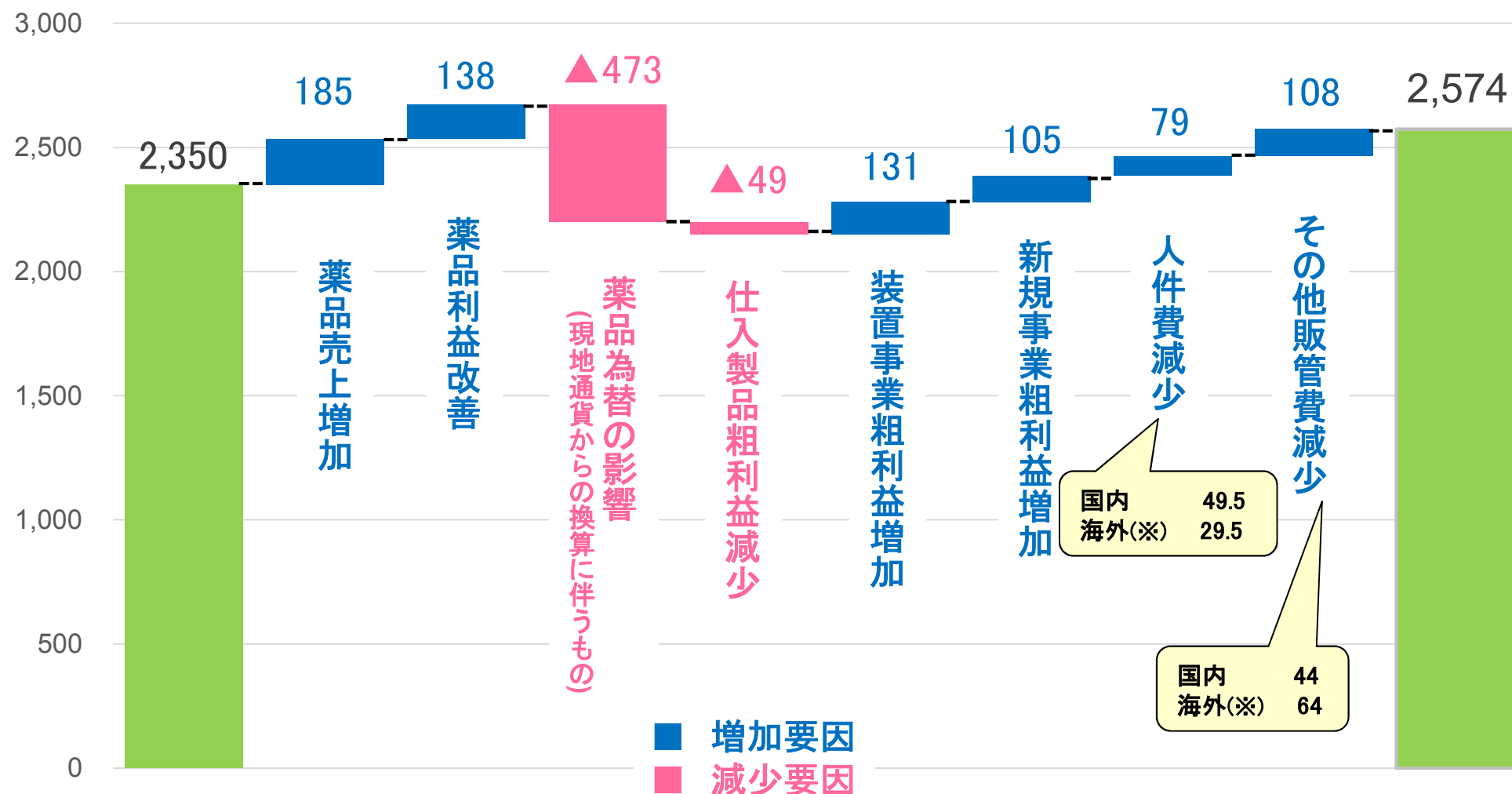
持続的成長を目指した目的意識

- ◆ 電子分野向けのビアフィリング用銅めっき薬品や自動車を中心とするプラスチック上へのめっき薬品など高シェア製品の販売維持と効率化による利益の確保。
- ◆ 事業の多角化と再構築により、将来の利益を創出。
- ◆ 他企業との協業によるグローバル展開を図り、収益を拡大。
- ◆ コーポレート・ガバナンスの徹底とコンプライアンスの重視。

2017年3月期2Q累計 連結営業利益 増減内容

(単位: 百万円)

(前年同期比)
+ 224

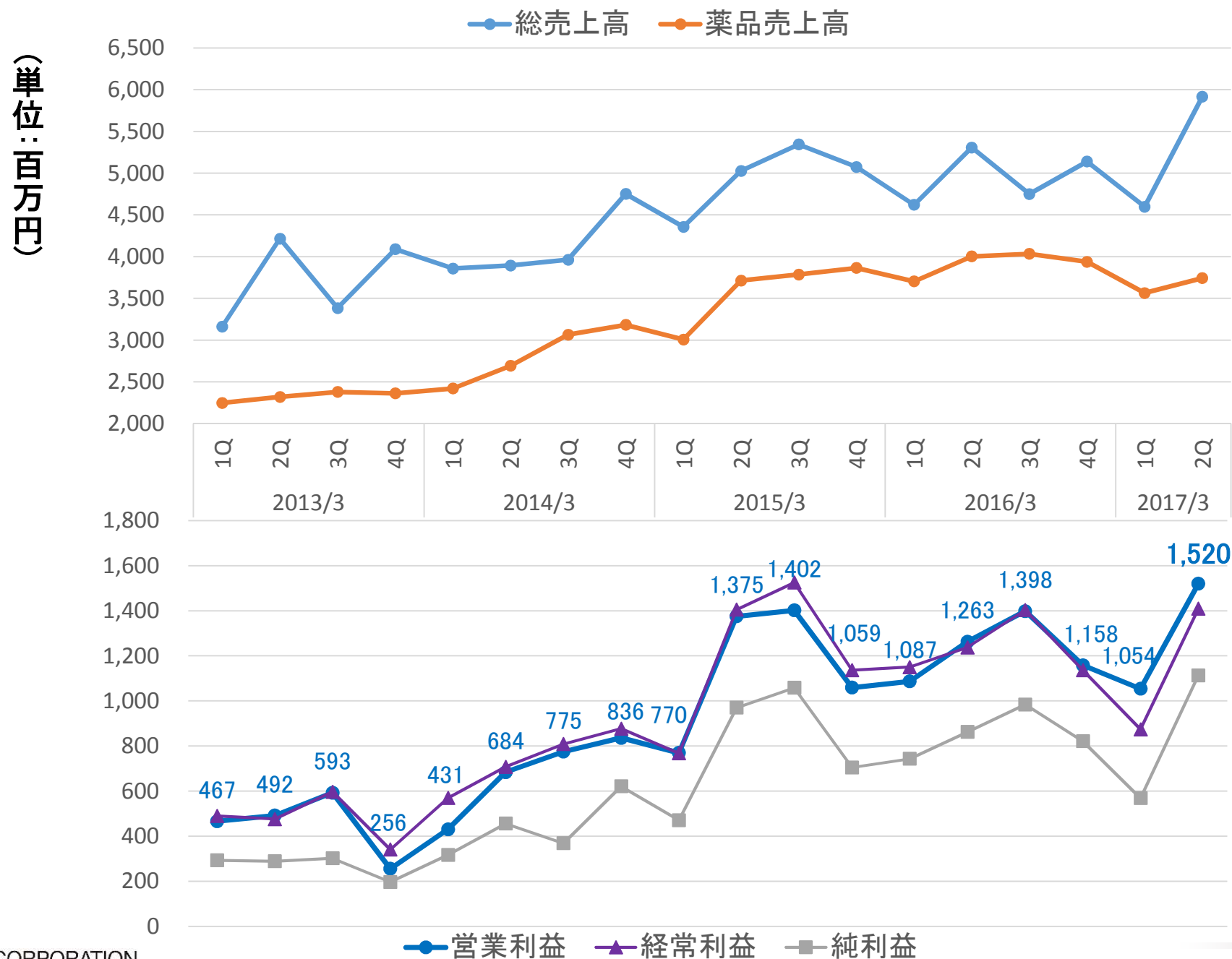


2016年3月期2Q
累計営業利益

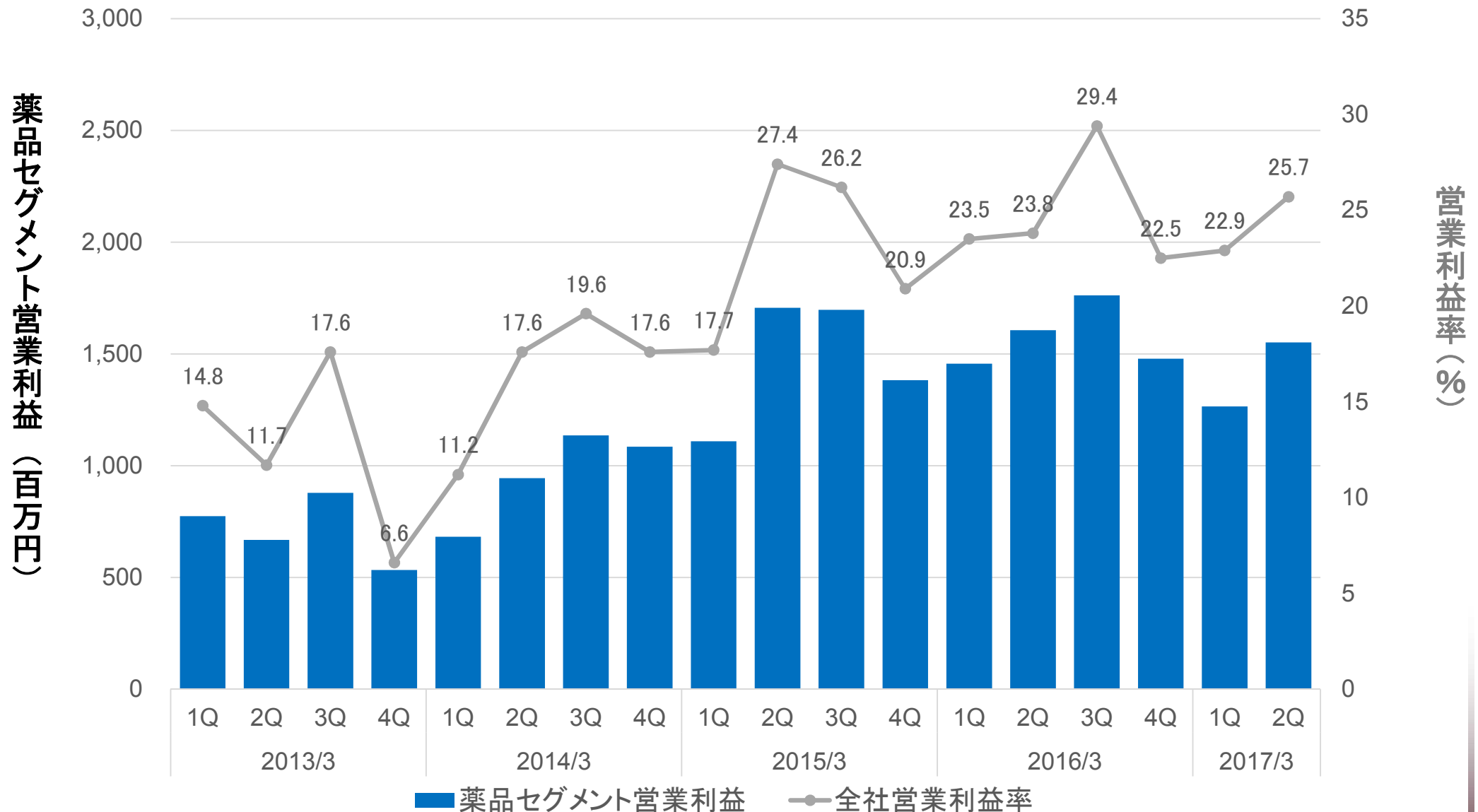
2017年3月期2Q
累計営業利益

※ 海外の「人件費」および「その他販管費」は、現地通貨ベースでは増加。
円換算に伴う為替の影響で減少。

四半期別 連結業績の推移

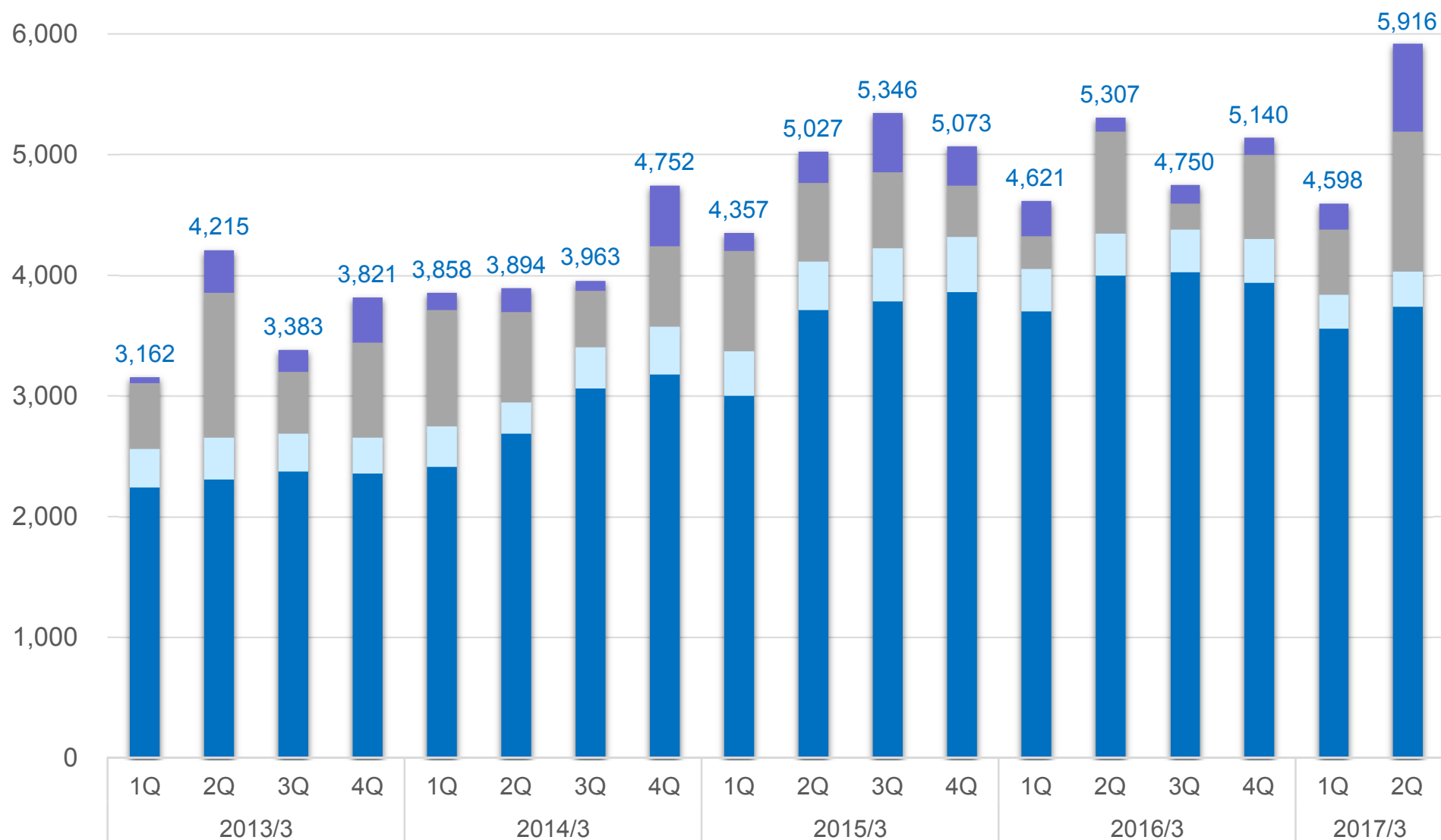


四半期別 薬品セグメント営業利益・全社営業利益率推移



四半期別 連結売上高の推移

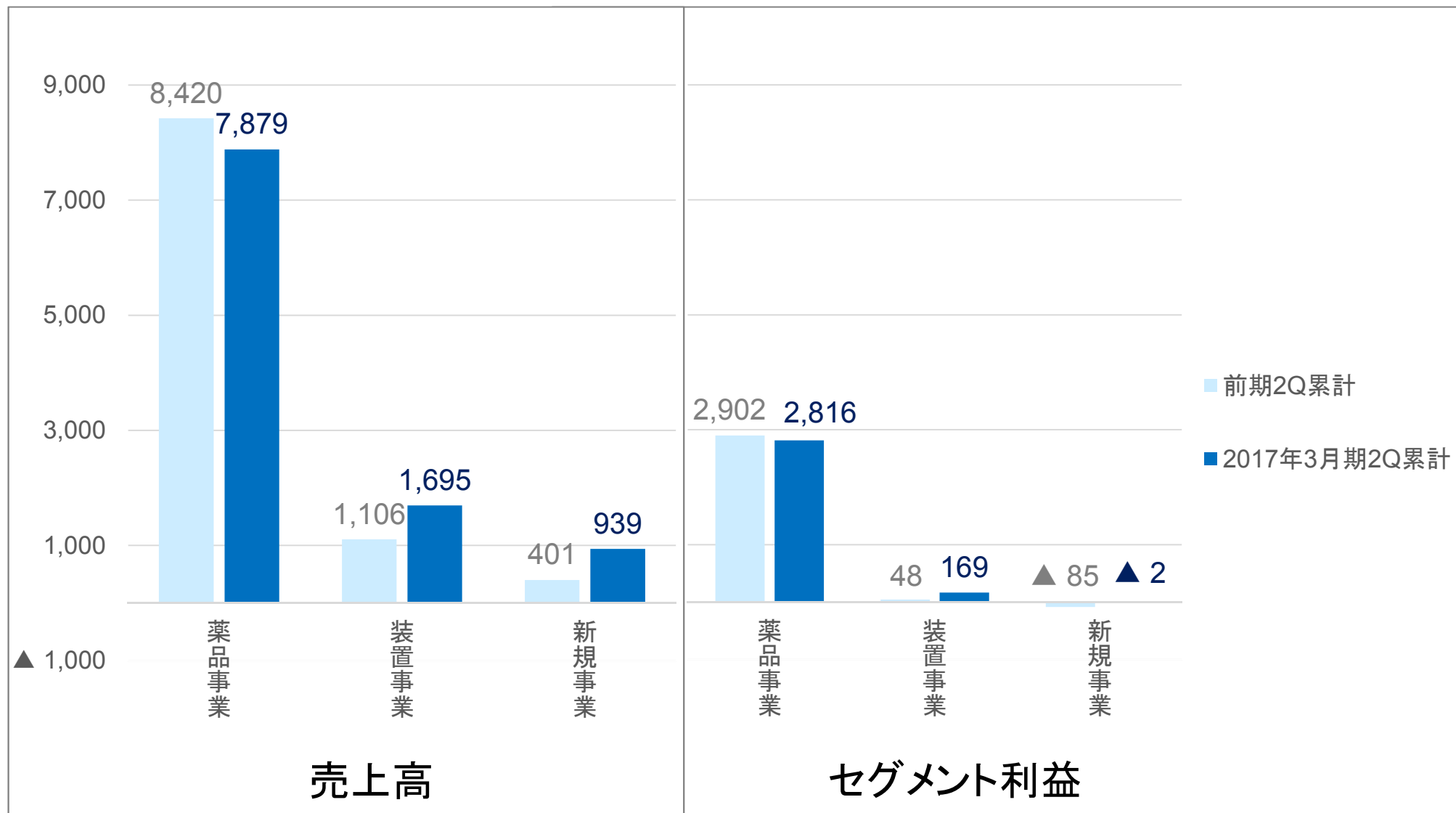
(単位: 百万円)



■ 薬品事業(薬品) ■ 薬品事業(仕入製品) ■ 装置事業 ■ 新規事業

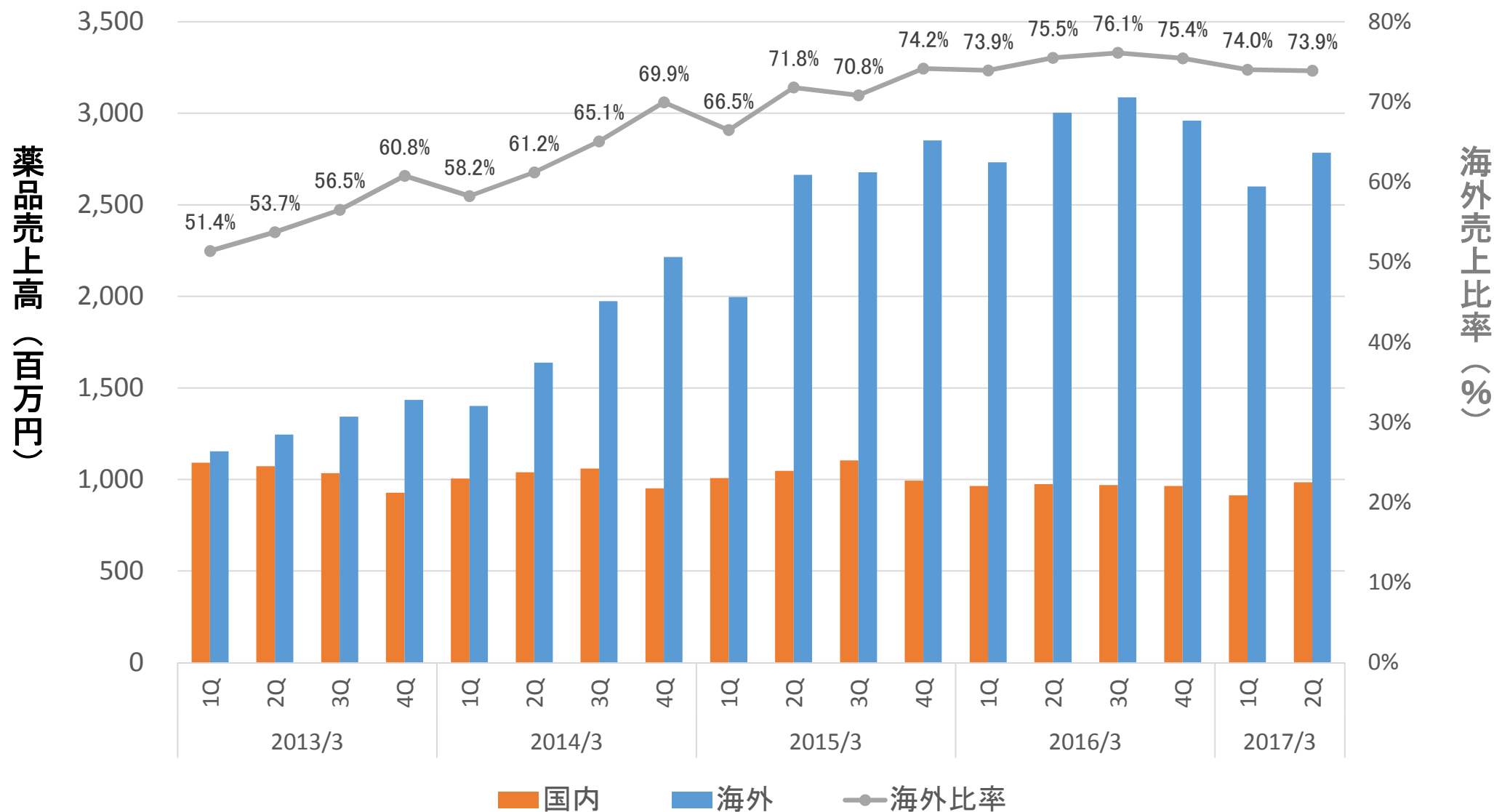
2017年3月期2Q累計 連結セグメント業績

(単位:百万円)



※2017年3月期1Qより、組織変更に伴い「新規事業」に含まれていた貴金属めっき薬品及びコーティング材について「薬品事業」へ含めて表示しております。

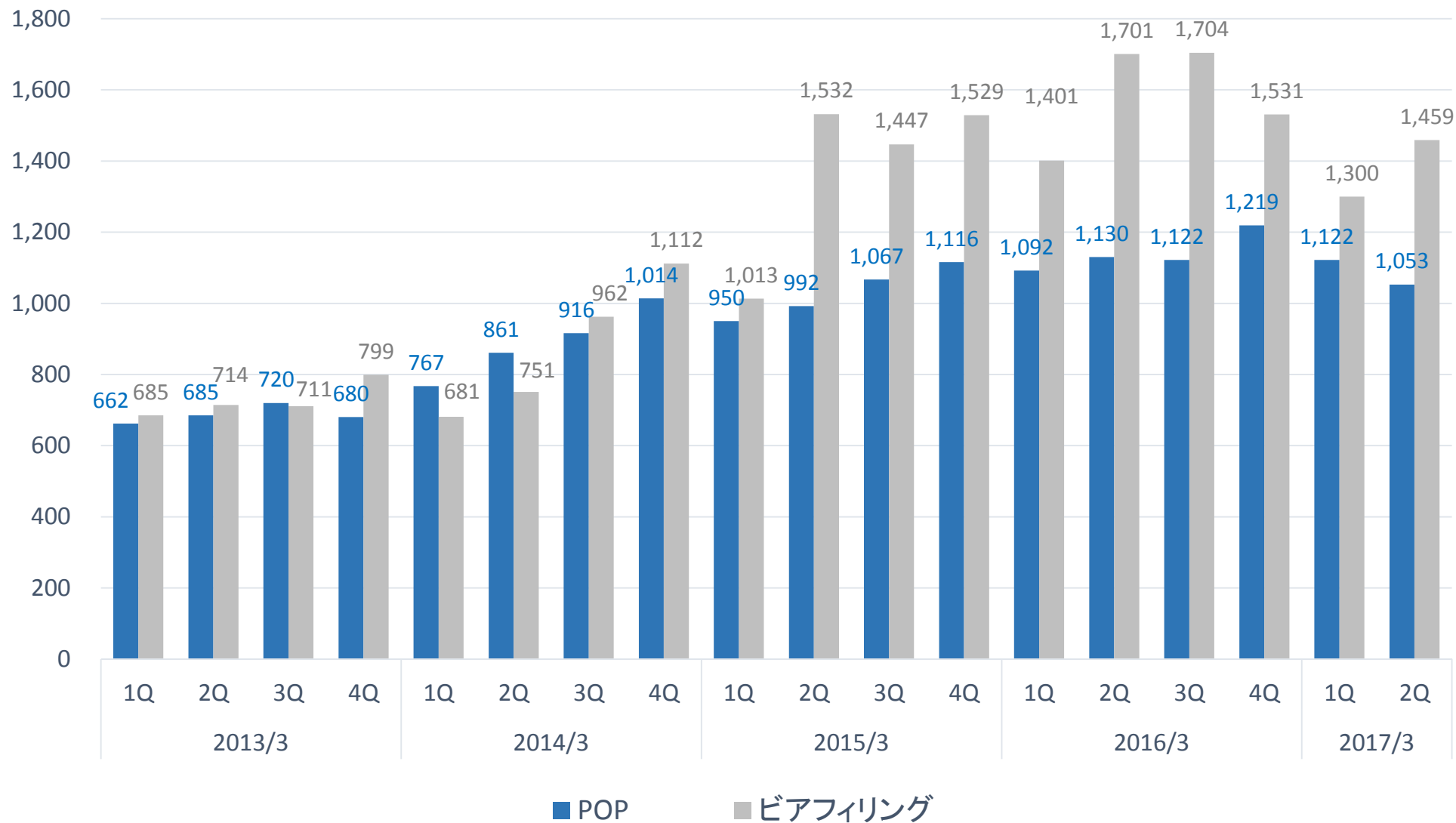
四半期別 国内外薬品売上高推移



四半期別 POP、ビアフィリング用薬品の売上高推移

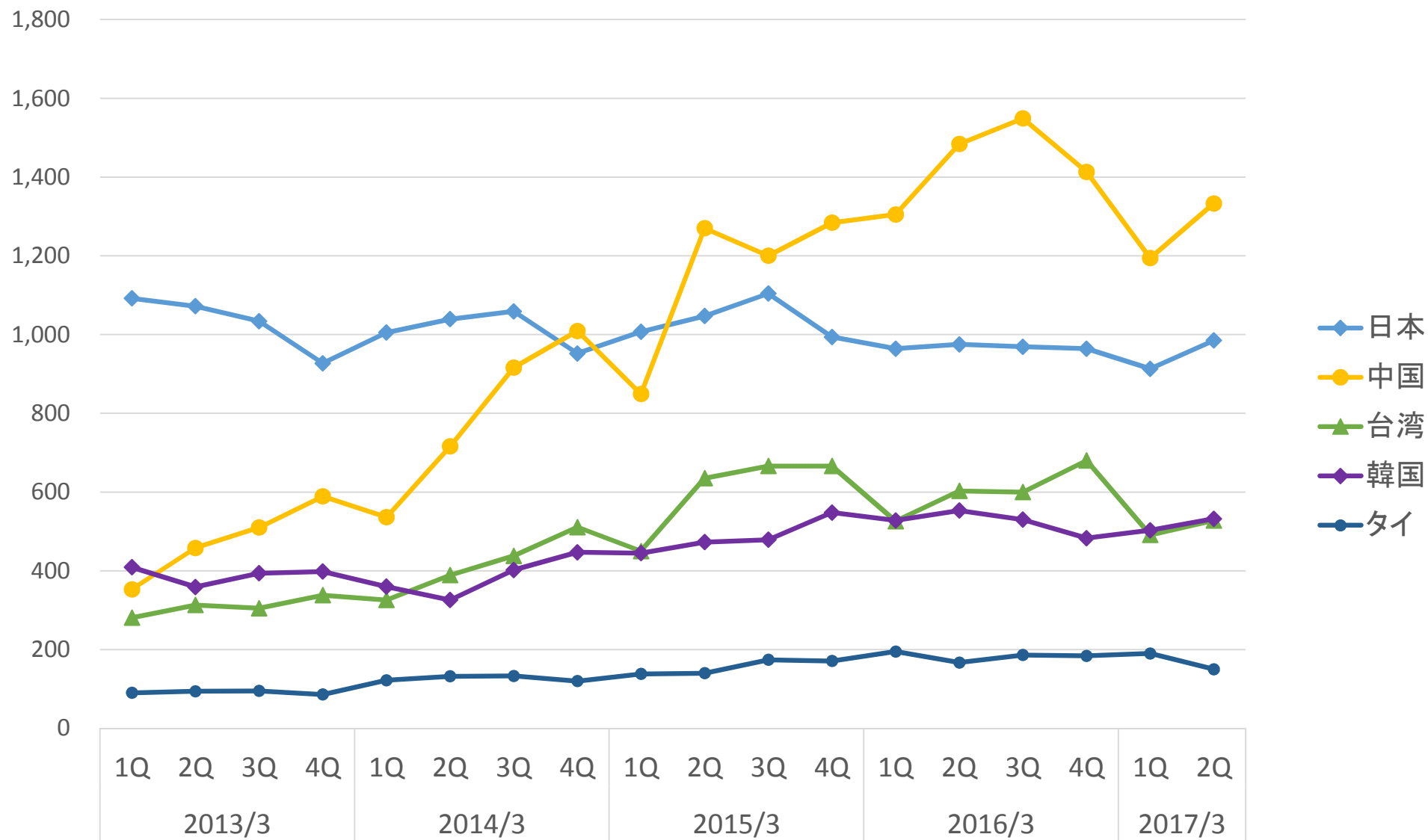
(単位:百万円)

POP (Plating on Plastics) … プラスチック上へのめっきで、主に自動車部品向け
ビアフィリング…プリント配線板向け銅めっき添加剤、主にスマートフォン、PC等



四半期別 地域別薬品売上高の推移

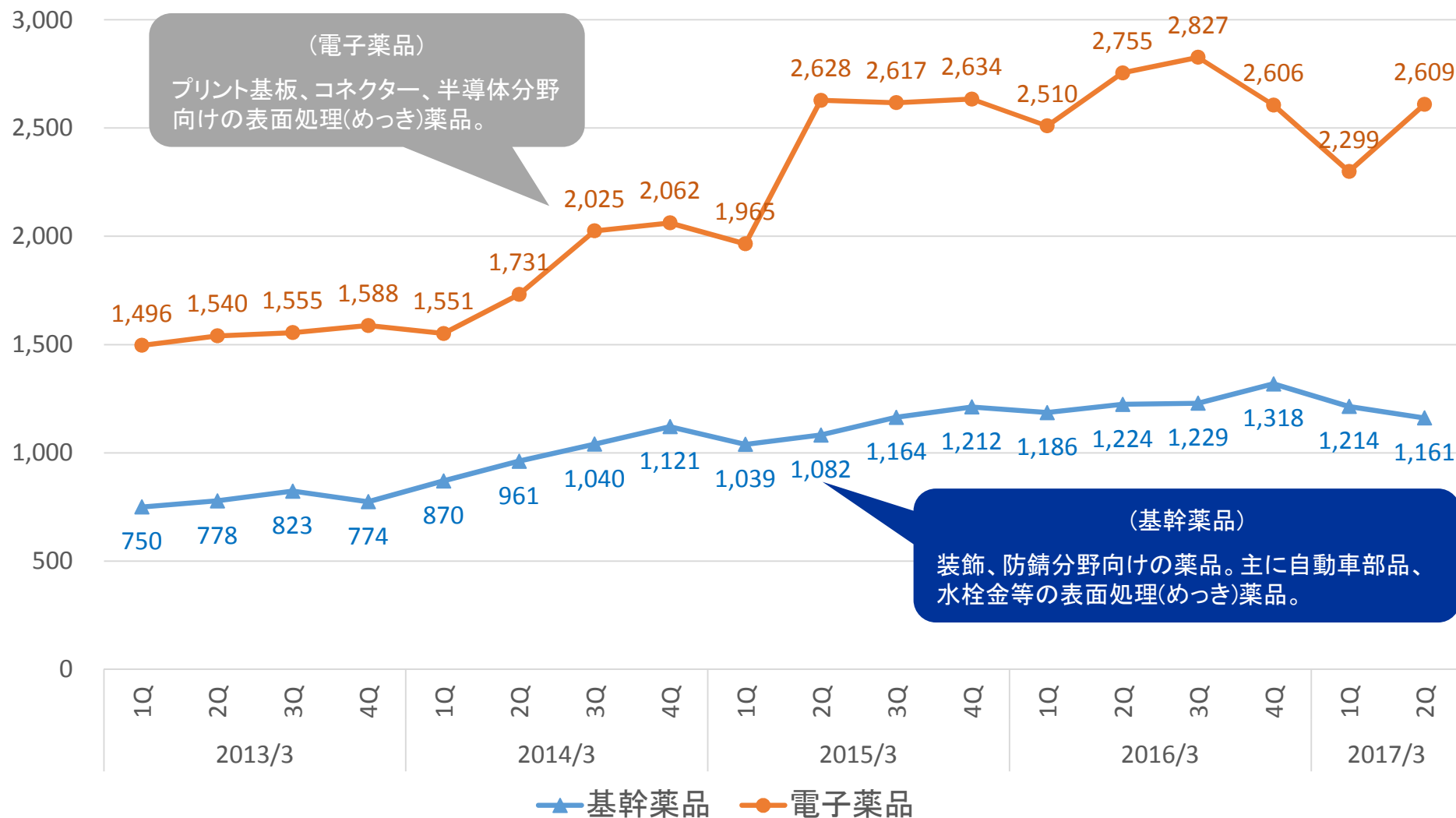
(単位:百万円)



四半期別 地域別薬品売上高の推移

(単位: 百万円)

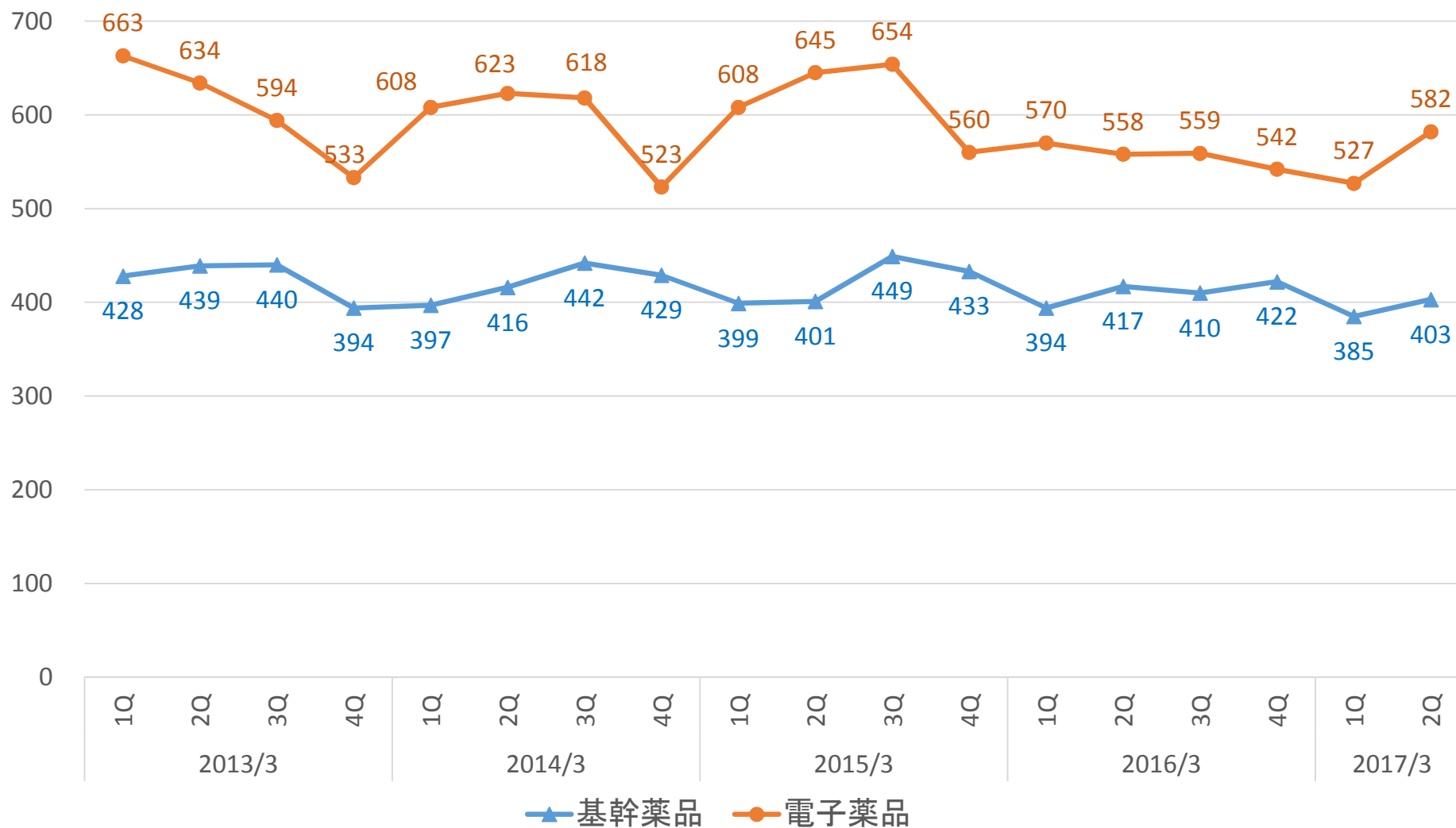
連結



四半期別 地域別薬品売上高の推移

(単位:百万円)

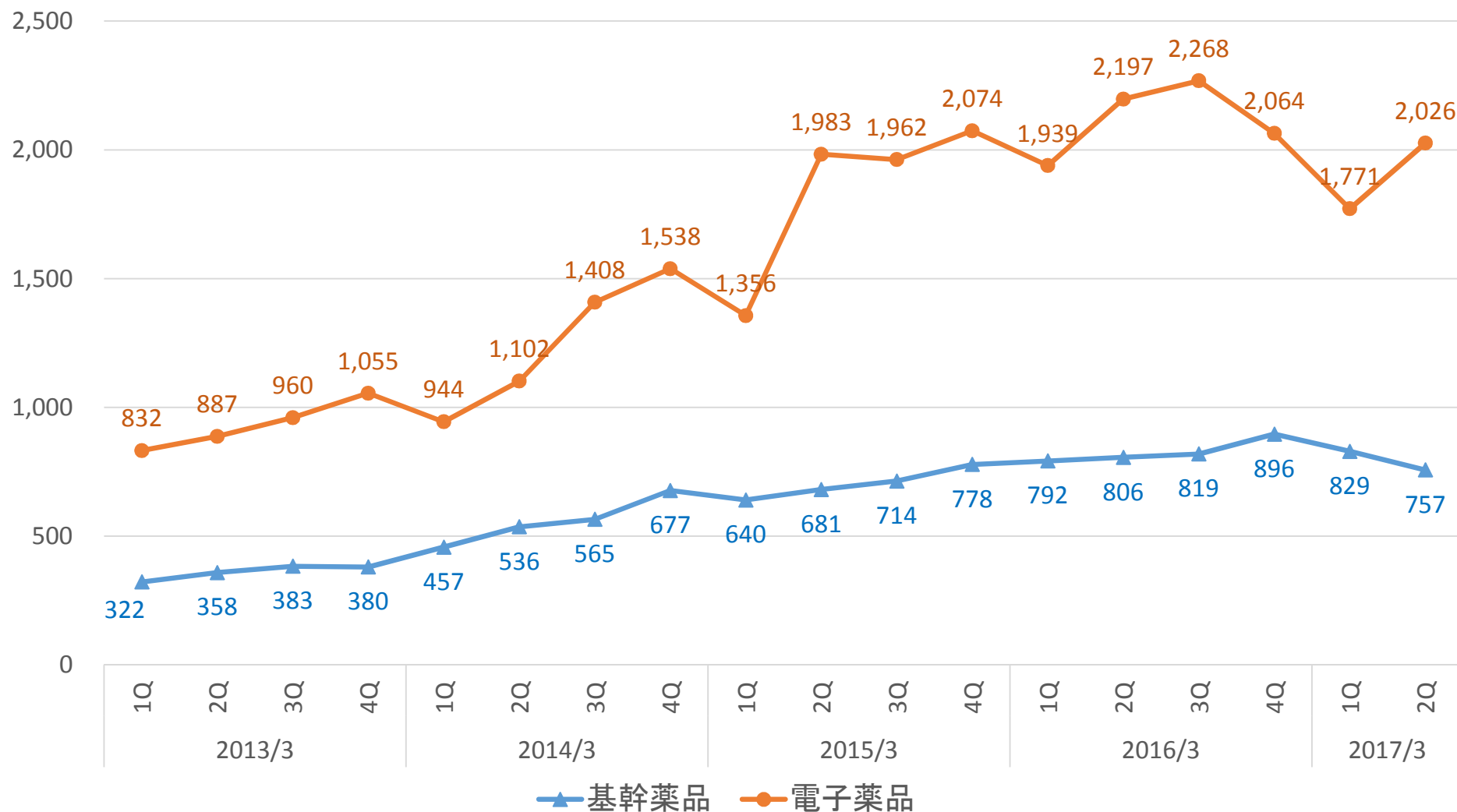
国内



四半期別 地域別薬品売上高の推移

(単位:百万円)

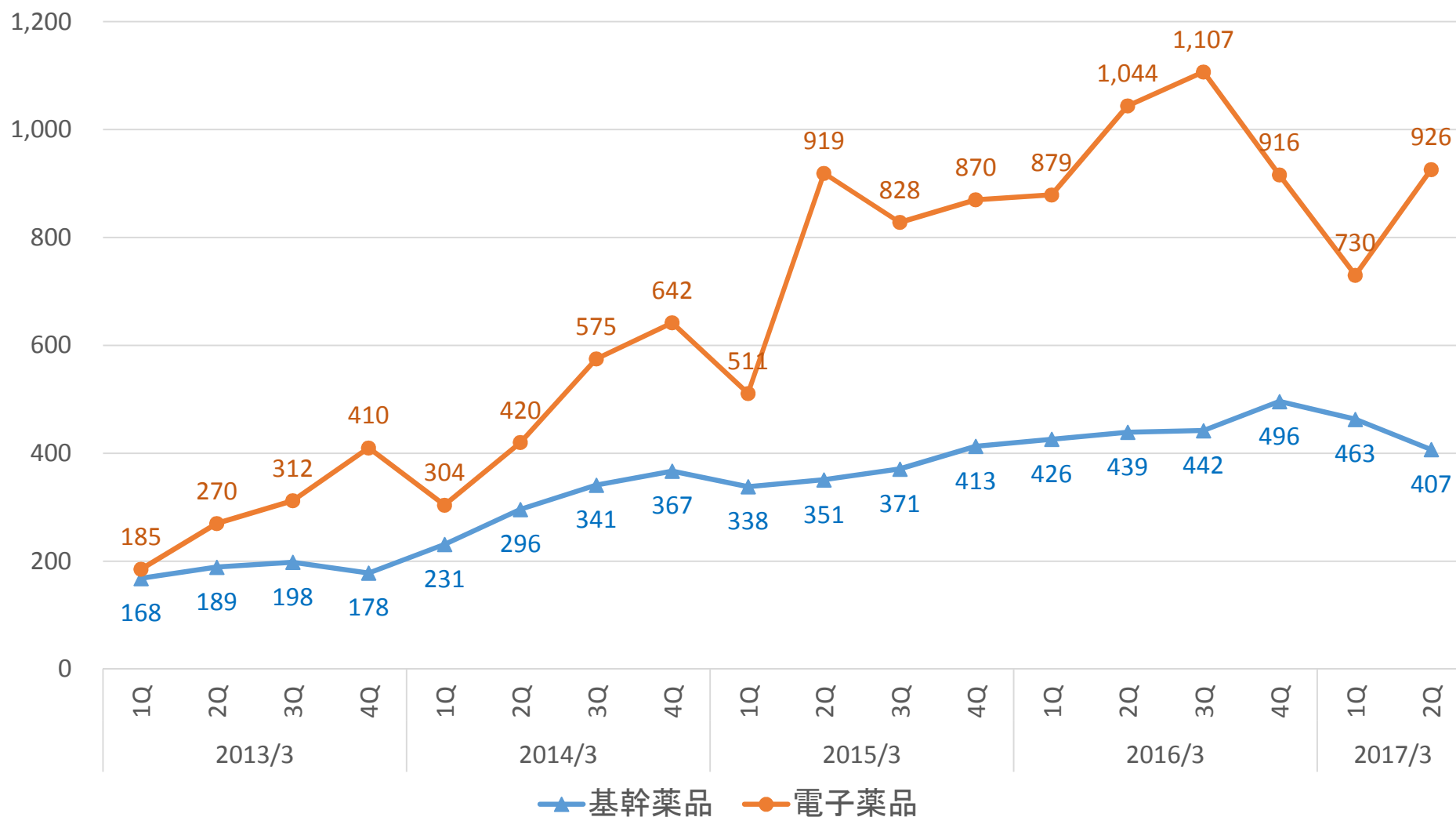
海外 (合計)



四半期別 地域別薬品売上高の推移

(単位:百万円)

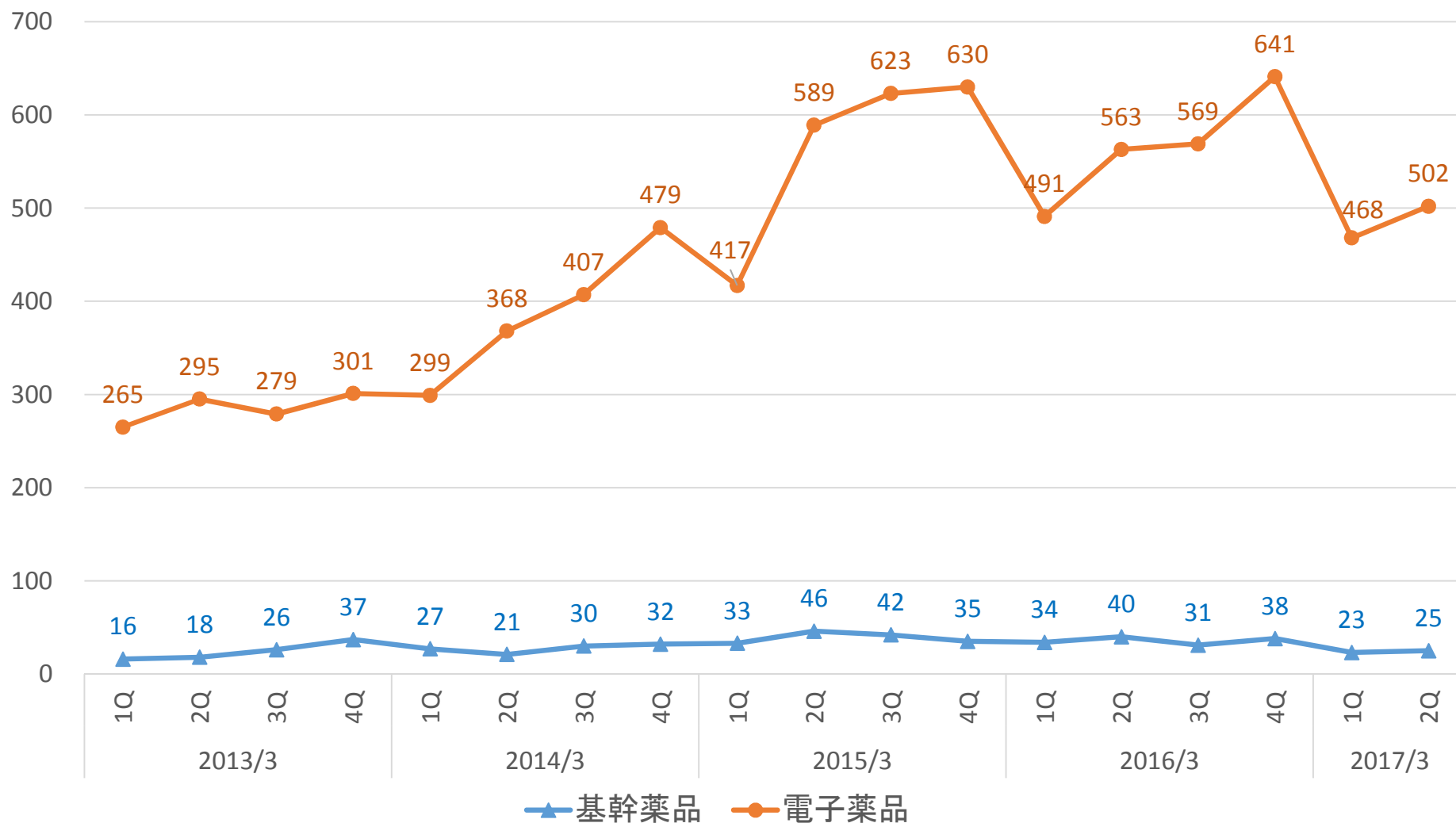
中国 (台湾直販分含む)



四半期別 地域別薬品売上高の推移

(単位:百万円)

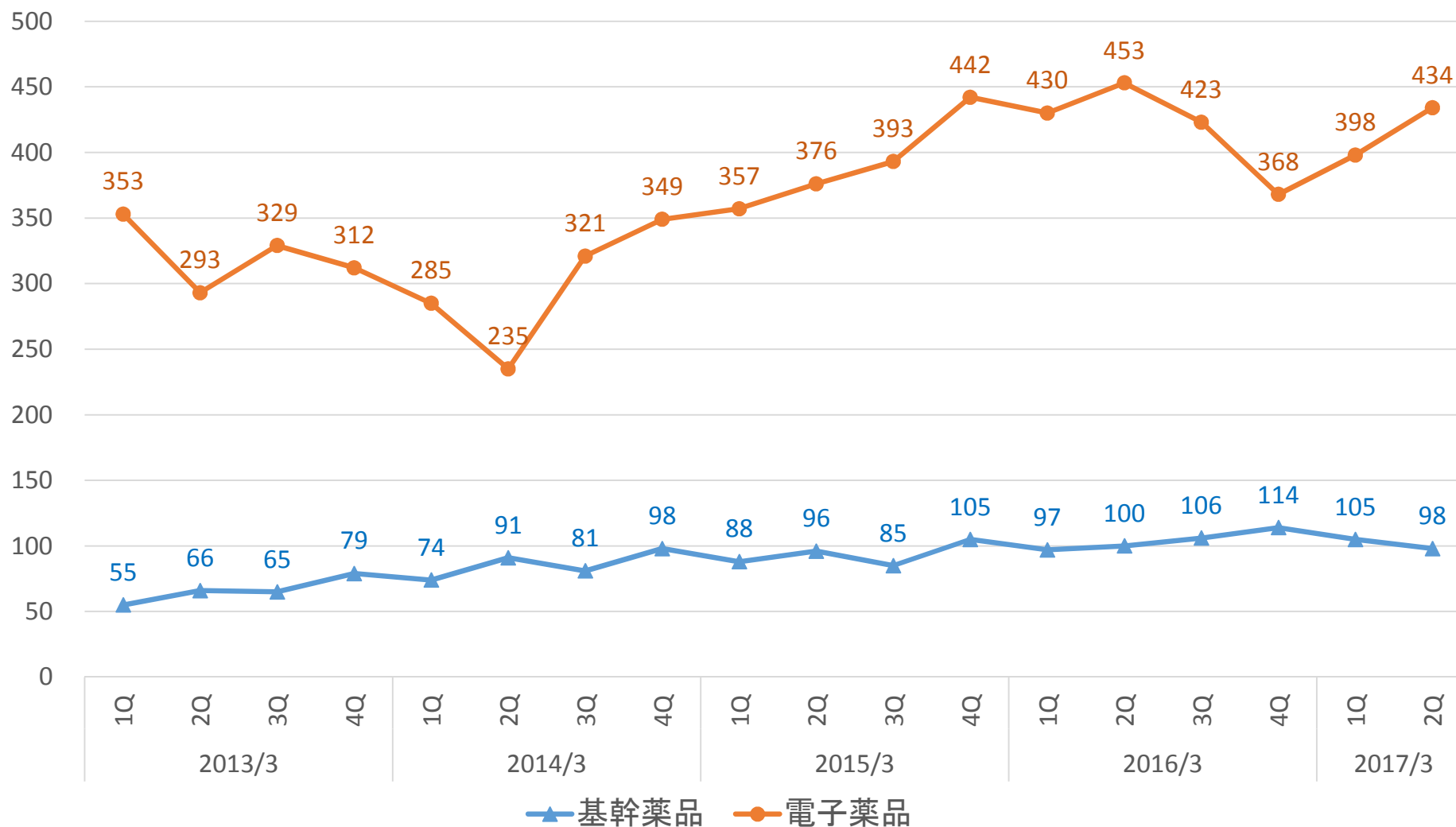
台湾 (中国直販分除く)



四半期別 地域別薬品売上高の推移

(単位:百万円)

韓国



配当予想

		2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期 (予想)
1株当たり配当金	中間	40円	60円 (内:記念配当10円)	60円
	期末	50円	60円 (内:記念配当10円)	60円
	年間	90円	120円 (内:記念配当20円)	120円

(注) 2014年10月1日付で、普通株式1株につき2株の割合を持って株式分割を行っております。
2015年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり配当金を算定しております。

当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために適正な自己資本比率を維持しつつ、業績の状況に応じて配当性向等を勘案し、安定した配当を実施することを基本方針としております。内部留保資金の用途につきましては、今後の事業活動並びに経営基盤の強化に有効活用していく方針であります。



- 2017年3月期第2四半期決算概要
- **トピックス**
- 参考資料（会社概要）

業績予想

(単位: 百万円)

決算期	2017年3月期			
	上半期 (実績)	通期 (期首予想)	通期 (修正予想)	前期に対する 増減率
売上高	10,514	20,300	20,300	2.4 %
営業利益	2,574	4,620	4,850	▲1.2 %
経常利益	2,283	4,620	4,550	▲7.6 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,682	3,210	3,250	▲4.7 %
1株当たり 当期純利益	239円53銭	455円04銭	465円03銭	—

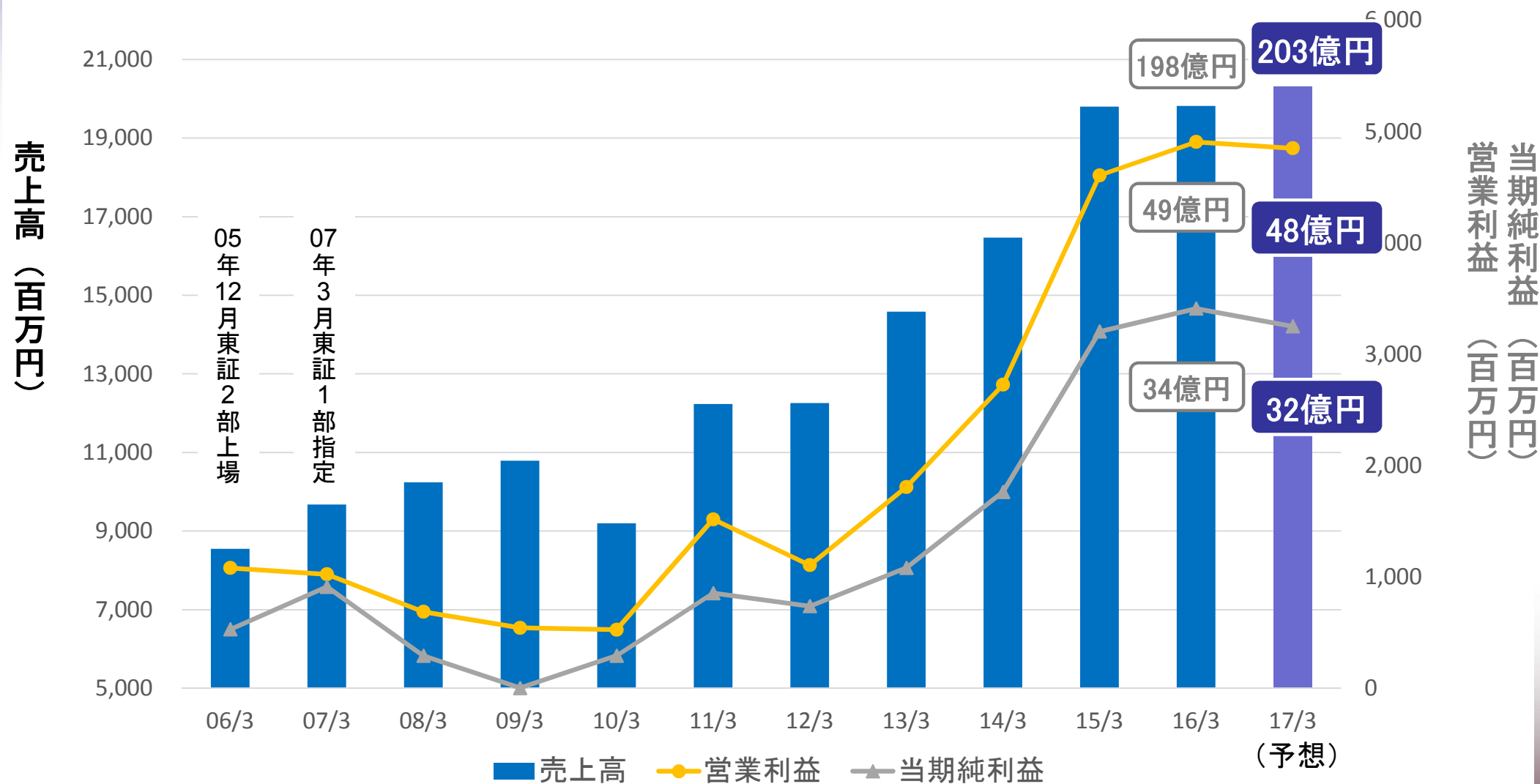
(期首予想との差)

営業利益: +230百万円

経常利益: ▲70百万円

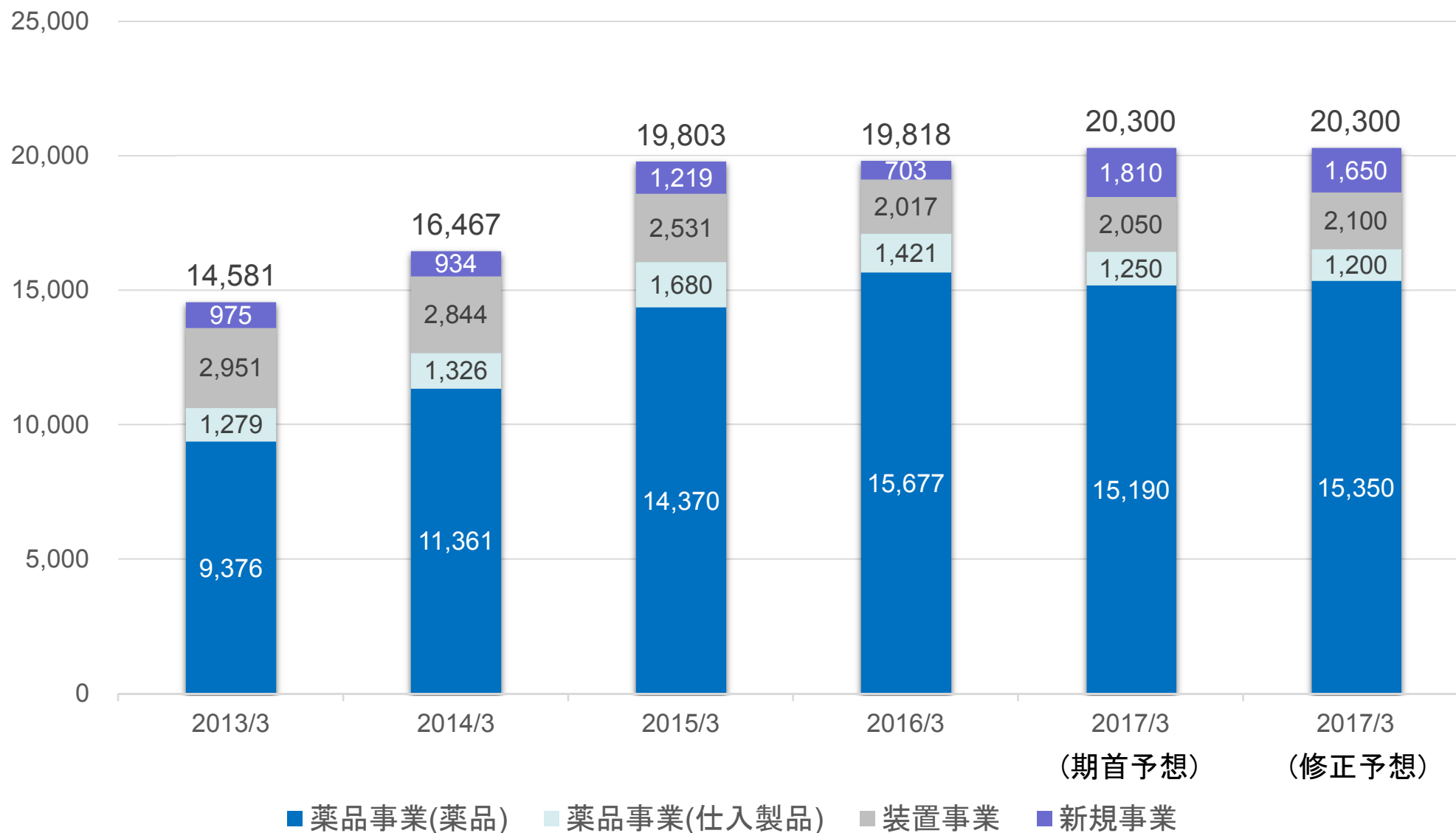
当期純利益: +40百万円

上場からの業績推移（予想）



年度別製品構成別売上高推移（予想）

（単位：百万円）



※2017年3月期1Qより、組織変更に伴い「新規事業」に含まれていた貴金属めっき薬品
及びコーティング材について「藥品事業」へ含めて表示しております。（修正予想に反映しております。）

FPC(フレキシブル基板)戦略プロジェクト

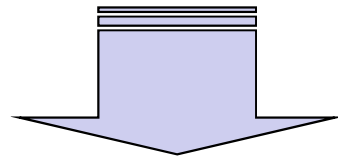
【進捗報告】

FPC(フレキシブル基板)戦略プロジェクト【進捗報告】

前回報告(まとめ)

フレキシブル基板(FPC)・・・薄く柔軟性があり、折り曲げられる基板。

- ◆ 近年、スマートフォン等のモバイル機器に使用され、FPCの需要が増加。
- ◆ FPCの市場拡大にあわせて、新しい製造工法(プロセス名:^{エルフシード}ELFSEED)を提案。
- ◆ FPCメーカーが素材に直接めっきを行うため、商流の変化が起こる。(次頁、参照)
- ◆ スパッタによる工法と異なり、穴の開いた素材に対して1度に両面へめっきができるため、より微細な回路の形成が可能。^{さきあな}(先孔工法)
- ◆ ロール to ロール式の装置と薬品のセット販売 → 生産性UPと大幅コストダウン



技術的にもコスト的にも優位性あり！

FPC(フレキシブル基板)戦略プロジェクト【進捗報告】

FPCの商流

〈ターゲット〉

- ◆ FPCメーカーのFCCL工程の内製化（コストダウン、軽薄短小化）
- ◆ FCCLメーカーへの新工法提案（コストダウン、軽薄短小化）
- ◆ パッケージ基板へFPC採用（軽薄短小化）

ポリイミド(PI)
フィルムメーカー

フレキシブル銅張積層板
(FCCL)メーカー

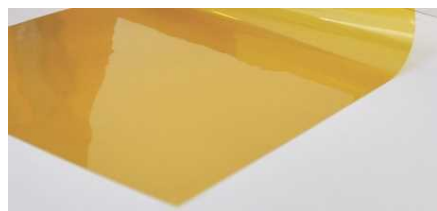
FPCメーカー

最終製品メーカー

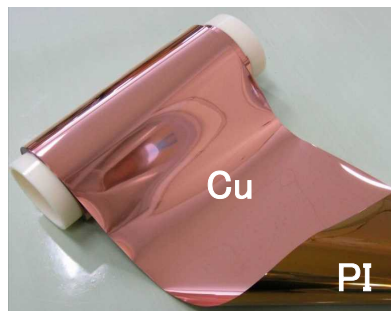
ポリイミドに銅箔(Cu)を張る。

FCCLを購入し、回路を形成してFPCを製造する。

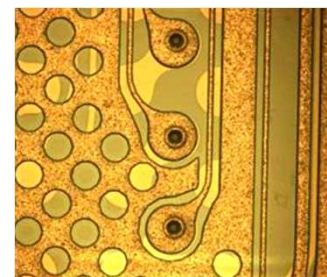
スマートフォンメーカー
TVメーカー、PCメーカー等



ポリイミド(PI)



FCCL(フレキシブル銅張積層板)



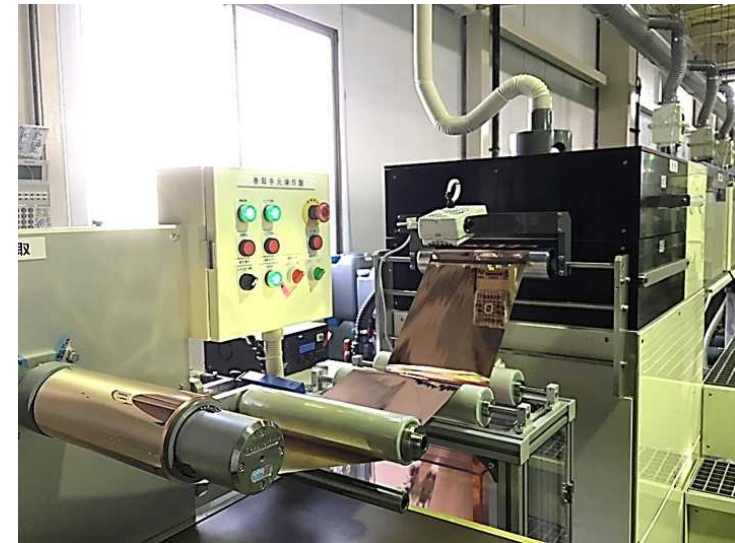
両面FPC



FPC(フレキシブル基板)戦略プロジェクト【進捗報告】



①ロール to ロール式
無電解ニッケルめっき装置



②ロール to ロール式
電解銅めっき装置



③ロール to ロール式
プラズマ装置

FPC(フレキシブル基板)戦略プロジェクト 【進捗報告】

現 状 報 告

- ◆ ロール to ロール式無電解ニッケルめっき装置にて、量産装置としての完成度を高めるため、搬送等の更なる改善・改良を実施。
- ◆ 当社装置で作製したロールサンプルを希望顧客に配布。
- ◆ **ターゲット顧客を絞り込み、当社と顧客の評価テストを実施中。**

今後の対応

- ◆ 顧客数社からの装置見積依頼に対応。
- ◆ **高精細FPCの低コスト化技術提案。**
 - 穴の開いた素材フィルムに直接めっきをつける「先孔工法」の前工程からはじまり、後工程の回路形成に至るまで、全て当社の薬品と装置で対応。
 - **薬品技術と装置技術を融合した当社の強みを検証。**

アメリカ現地法人 JCU INTERNATIONAL, INC. 【開所式】

今期の方策（前回報告）



JCU INTERNATIONAL, INC. (ミシガン)

◆ 世界一の製品を目指す研究開発

→ EUの化学物質規制に対応する研究開発。高性能品を早期に開発し、
アメリカだけではなく日本やアジア各国への波及効果を狙う。

◆ 米国内での知名度向上

→ 現地で無名の当社が米国内の顧客対象に認知されるべく活動を行う。

◆ マーケティング活動による情報収集

→ 自動車産業における表面処理の将来像や求められる性能等の情報を
入手し、JCUグループとして研究開発に役立てる。

アメリカ現地法人: JCU INTERNATIONAL 【開所式】

当社アメリカ現時法人の研究設備およびパイロットプラントの完成を機に、2016年9月16日、社内にて開所式を実施しました。

リボンカット後、ミシガン州、オークランド郡、ウィクソム市の来賓から祝辞をいただき、それぞれより記念の盾が寄贈されました。





- 2017年3月期第2四半期決算概要
- トピックス
- 参考資料（会社概要）

会社概要

創業 : 1957年 12月

設立 : 1968年 4月 1日

資本金 : 11億7,625万円

本社所在地 : 東京都台東区東上野 4-8-1 TIXTOWER UENO 16階

業務内容 : 表面処理薬品、表面処理装置及び関連資材の製造・販売

代表者 : 代表取締役会長兼CEO 小澤 恵二
代表取締役社長兼COO 君塚 亮一

従業員数 : 単体 258名 連結 528名 (2016年3月末現在)

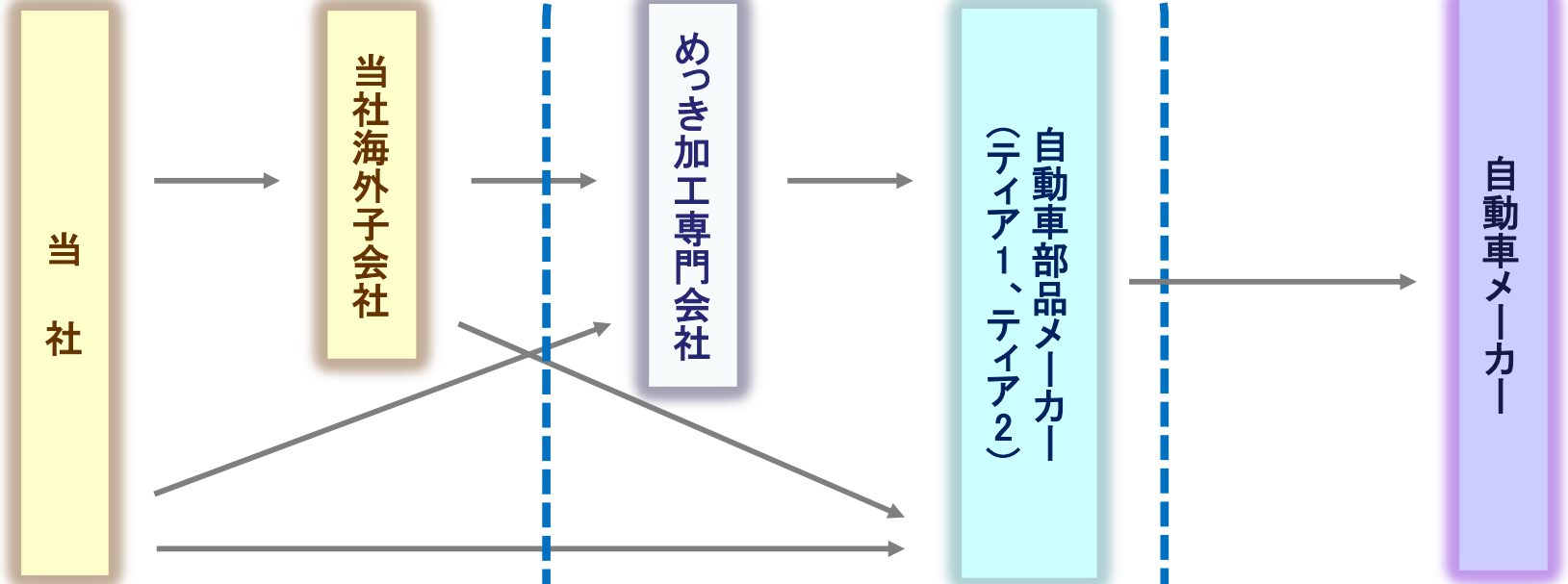
拠点 : 国内 6拠点 海外 13現地法人

ISO認証取得

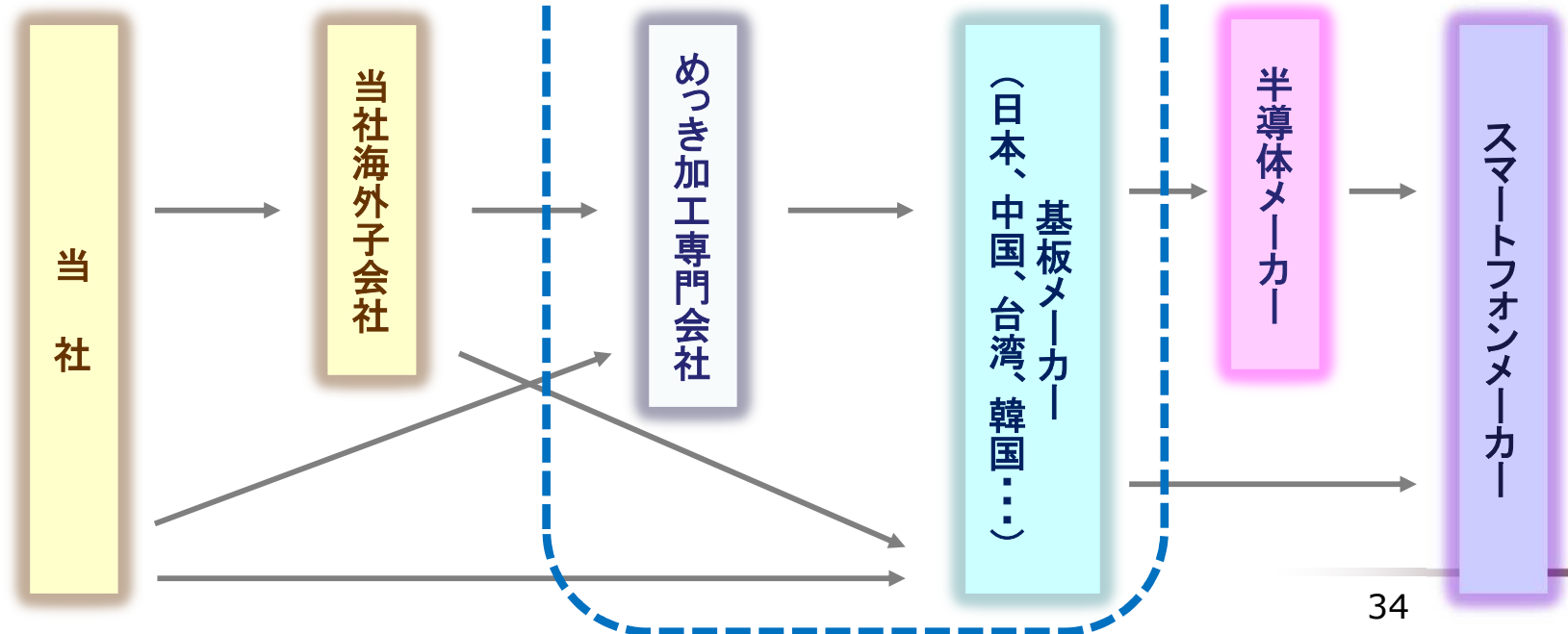
ISO9001	生産本部・薬品調達部・薬品事業本部・本社営業部・総合研究所	JCQA-0281
ISO14001	生産本部・総合研究所	JCQA-E-0143

主な商流

自動車



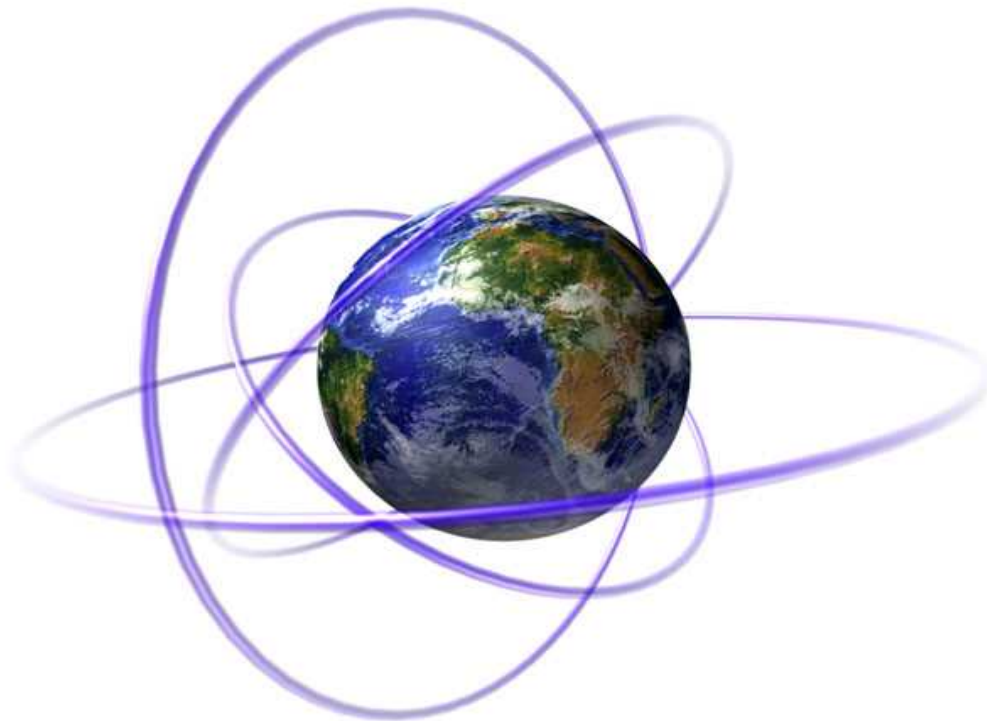
スマートフォン



主な製品

薬品事業	装飾・防錆分野向け (基幹薬品)	自動車部品(フロントグリル、ドアハンドル、エンブレム等) 水栓金具(給水機器、シャワーヘッド、排水栓等) 建築部品(ボルト、ナット等)
	電子分野向け (電子薬品)	プリント配線板(両面板、多層板、ビルドアップ配線板、パッケージ基板等) 電子部品(リードフレーム、チップ部品、コネクタ等) 半導体(シリコンウエハー)
装置事業	全自動表面処理装置	素材の投入からめっきの完成まで自動運転をする装置
	付帯機器	表面処理装置に付随する、ろ過機等の付帯機器の製造販売
	自動分析管理装置	めっき液の濃度を分析し不足分を補給して、自動で管理する装置
新規事業	プラズマ装置	プリント配線板のめっき前処理用等の洗浄処理装置
	太陽光発電装置	太陽光発電装置(パネル)の設置・施工
	天然水	当社ブランド「富士桜長命水」の販売

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。



当社ホームページ:
<http://www.jcu-i.com/>

お問い合わせ先
TEL: 03-6895-7004
FAX: 03-6895-7022

※ 2016年4月 連絡先を変更しました。